

## 一 学校は子供のため

紹介したいのは静岡県藤枝市立青島小学校（成岡桂三校長）。特別な研究指定校ではない。どこにでもある都市近郊の小学校である。

だが、訪れた方は、子供たちの気取らない明るい笑顔に迎えられるであろう。授業を見れば、自分の言葉で自由に考え行動する子供たちの自然な姿に、さわやかな感動を覚えるであろう。

「学校は子供のためにある。親や教師のためではない。その子供は十把ひとからげの子供ではない。〇〇君、〇〇さんという固有名詞の子供である。この子供の心身の健やかな成長をうながすのが学校である。」これが学校長の成岡先生の持論である。そのために、とにかく授業をよく見られる。それも教室の後ろではなく前から入って。成岡先生の判断基準は教師の教え方ではなく、子供一人一人がいかにか自分の能力を発

揮しているかにあるからである。

## 二 自立は教師から

学校の教育目標は「自立できる子供」。ただし、共通するのはこの目標だけ。具体化するための研究課題は先生方にまかされている。

「自立できる子供」とは、「自分

子ども一人一人の自然な輝きを求めて

静岡・青島小学校

馬居政幸

静岡大学助教授

の考えをもち、物事を自ら判断し、行動する力を身につけた子供」である。

自ら判断できない教師に、自ら判断できる子供を育てられない。学級経営から授業研究まで全て先生方が互いに研究しあい、子供達とともに創造していくのが原則である。

たとえば、昨年度の三学期、私が訪問した石田敦子先生が担任する五年二組の教室の前の黒板の上には、「気づき 考え 進んで 実行！」と書かれていた。これだけならどこの学校の教室にもみられる。ユニークなのは、この文字の周りに先生が校庭で写した子供一人一人のスナップ写真と一人一人の目標を書いた紙が三枚重ねてはられていたこと。学期毎に子供達が目標を自分で決め、その達成度を自分で判断し、新たに目標をたてていたからである。

このような目標や表現方法は学級ごとに全て異なる。教室の机の並び方もさまざまである。もちろん授業スタイルも先生と子供たちの個性によって千変万化である。

のびのびしているのは子供達だけではない。先生方の個性も満開。そして最も自由に個性を発揮しているのは、いうまでもなく成岡先生である。

「このように指導は画一的ではないか？」

## 疑問に思う学校の指導 No.5はこれだ

保護者からの見て

馬居喜代子 静岡県在住

【学校もすい分変わったけれど】

今の学校教育は画一的でしょうか？と聞かれたら、私は「いいえ、結構、個性を生かす教育に向かっていていると思いますよ。」と、答えます。

ほんの七、八年前と比べても、子どもを取り巻く教育環境は、格段の進歩を遂げています。生活科の導入とともに（？）学校の中もすい分変わりました。形式的で画一的だと思われる悪弊がどんどんなくなってきました。

長男（高二）が小学生だった頃、子どもは登校するとすぐ体操着に着がえ、一日中体操着で過ごしていました。六年生の大柄な女の子も、日がな一日、

太ももも露わにブルマーで過ごす。第一冬は寒くてかなわない。「これは変ですよ。先生方も半そで体操着にブルマーで授業をしてみたらどうですか。」と、親たちがどんなに騒いでも、学校側は何の反応も示しませんでした。それがいつの間にか、体操着に着がえさせない先生が現れ、そういう先生の方が増えてきて、今ではそんな時代があったことも忘れ去られたかのようです。学校の中も、社会の常識が通用するようになってきています。

体操着と言えはゼッケン。これも昨年からなくなりました。我が家には四人の子どもがおりますから、体操着の

ゼッケンをつけるのは、ほとんど徹夜の作業です。私は手放して喜びました。でもなくなつて初めて分かった事は、「私たちはゼッケンをなくしてほしかったのではなく、ゼッケンでしか我が子を見分けられないような没個性とも言うべき服装をやめてほしかったのだ」という事実です。昨年から、運動会で我が子を探し出すことができなくなつてしまいました。

服装のことでついでに言わせてもらえば、静岡では冬でも半ズボンかスカートをはくことになっていきます。長ズボンをはく時は、親が「風邪がみでずので」などという理由を一筆書いて子どもに持たせなければなりません。暑いか寒いかの判断くらい、子どもだってできるわよと言いたくもなりません。でもこれも、近いうちに、そんなことに目くらまを立てる先生がいなくなるに違いないと、こちらは極めて楽観的にしています。

ところで、画一的という言葉の奥には、全員平等に、という発想が隠されていて、それが個性を伸ばすことの妨げになっている場合が多々あります。最も顕著な例が運動会の徒競走。各クラス足の遅い子から順に並ばせ、各クラスから一人ずつ、つまり五クラスあれば五人ずつ、順次走っていくのです。遅い子ばかりの競走から、だんだん速い子ばかりの競走になっていくわけです。

実は、我が家の子どもたちは、その恩恵を受け、徒競走でビリになる確率は減りました。

しかし、だれがこんなくだらない事を考えたのでしょうか。こういう時にしか活躍できない子だっているのです。そういう子の個性をふみにじって良いのでしょうか。競走すればビリになる子がいるのは当たり前。学校生活をトータルして、どこかで自信を与えてやれば良いと思うのです。

それにしても、一昨年からの生活科の導入は、個性を伸ばすという観点からは、成果を上げているなと思います。我が家の生活科が大好きだった次女（小三）は、今でも自分は画家にでも歌手にでもなれると信じています。生活科には、勉強ができる子でできない子という選別がありませんから、少なくとも自信喪失につながるような経験が上のどの子よりも少なかったと思われ

迎なのですが、できれば準備段階も子どもだけでできたらなと思います。親が協力してくれなければ、やっつけられないわという素ぶりが見えるのはとても残念です。そうでなくても今は親の出る幕が多すぎます。

今から三十年程前、六年生だった私は交通委員として、民交さんのお手伝いをして旗ふりをしました。ベルマークの整理も児童会の仕事で、委員の人が放課後集まって点数を数えたものです。

彼女が二年生の時、生活科の授業を参観しました。膨大な量のワラとダンボールを使い、二つの空部屋を一ヶ月以上も占領して、子どもたちが思い思いに作った「私の住みたい家。」むせ返るようなワラの臭いの中、ワラのベッドで寝ている子、ワラのプールで泳いでいる子。どの子の顔も誇らしげに生き生きと輝いていたのが印象的でした。生活科の授業を二年間観察してきて、これは画期的な試みだと思ひ、大歓

ところが二十数年経って、我が子が小学校に入って驚いたのは、旗ふりもベルマークの整理も母親の仕事になっていた事です。この調子でいくと、あと二十数年経ち、孫が小学校に入り、その母親たちは仕事忙しいので、ベルマークの整理はおばあさん達にやってもらいましようという事になって、私なんかは老眼鏡をずらしながら細かい点数計算でもしているかもしれませ

特集 「個性を生かす」学校の新しい試み41

5000号 アンケート この人・この本に学ぶー私の描く理想の学校像……………安彦忠彦・伊津野朋弘・木原健太郎・長尾彰夫・藤田英典・向山行雄

「こういう指導は画一的ではないか?」疑問に思ふ学校の指導№5はこれだ

私学の教師から見て……………竹下昌之……………ハ  
海外勤務経験から見て……………村山泰弘……………二  
幼稚園教師から見て……………横尾俊子……………三  
保護者から見て……………馬居喜代子……………四  
アメリカの教育から見て……………梶田正巳……………六  
民間教育運動から見て……………吉田新一郎……………八

〈往復書簡〉「子どもの個性」と学校の役割ー個性は生かすものか・育てるものか

徳田 自主、自立、自由をめざす個性豊かな子どもの育成……………野口芳宏……………三〇  
徳田 今から出発し、今から改革する力を……………野口克海……………三二

〈私が気にかけている自己診断のポイント〉「こう思う時は「ひとりひとり」が見えない時だー

子どもの真実は、子どもの立場から見なければわからない……………六浦 基……………六  
子どものつぶやきが聞こえる豊かな感性の教師をめざして……………五月女勝正……………三三  
教材の分析、授業の工夫で子どもを積極的に活動させる……………坂本俊生……………三六  
子どもを見失わない「目のつけどころ」……………高橋昭二……………三七  
〈今からでもやれること〉「個性を生かす」学校を求めて

「授業指導」で個性を生かすポイント……………霜田一敏……………四〇  
「生徒指導」で個性を生かすポイント……………金子保……………四四  
「学校施設」で個性を生かすポイント……………喜多明人……………四六  
「学校行事」で個性を生かすポイント……………高旗正人……………五三  
「学校給食」で個性を生かすポイント……………長田健介……………五五  
「指導と評価」で個性を生かすポイント……………寺崎武利……………六〇  
「道徳指導」で個性を生かすポイント……………尾田幸雄……………六四  
個性を育てる「ボランティア教育」とは……………田中雅文……………六六

「個性を生かす」わが校の新しい試み

個性の伸長を図る場の構成……………渡部陸平……………七三  
「思い」や「願い」を遂げさせる授業の改造……………立井信也……………七六  
ティーム・ティーチングの取り組みを発展……………矢羽々昭夫……………八〇  
「生徒の個性」を生かし育てる場の工夫……………植村 稔……………八四  
教科教室型の学校運営方式で推進……………井田勝興……………八八

〈全国縦断「ボランティア」の学校あり〉……………九一

北海道 田山修三 / 東北 佐瀬壽朗 / 関東 高階玲治 / 信越 塚野巳三郎 / 信越 齋藤 勉 / 東海 馬居政幸 / 近畿 上寺久雄 / 中国 片上宗二 / 四国 福井康之 / 九州 井上正明 / 沖縄 仲田典爾

研究会案内

筑波大学附属小学校・七 / 山口大学附属光小学校 (初等教育研究会) ・三 / 高知大学附属中学校・七五 / 信州大学附属長野中学校……………八七

文教ニュース 高校における国際交流などの状況調査 / 「生涯学習とボランティア活動」調査 / 「青少年のボランティア活動」で意見……………一〇三

「リレー連載・「21世紀の学校」をどう考えるか」③

「教育のない学校」の幻想……………下村哲夫……………一〇  
「リレー連載・今「学校の研究」をどう組み立てるか」③……………井戸紀子……………二六

「子供の姿で語り合う研究」に……………酒井臣吾……………三〇

「連載・私の校長室だより」③……………糸井 清……………三三

「連載・校長書簡記・管理職としての「はじめ」とは」③……………長南博昭……………三七

「連載・中学校で取り組む、楽しい学校・わかる授業」③……………小西正雄……………三九

「連載・激辛時評」③……………

「連載・ボランティア」……………

\*「リレー」よく使われる「教育外来語」●水越敏行 / 表紙② わが校のシンボル●庭野 二三 / 表紙④⑤ わが校のユニークな学校建築●金子紀久夫 / 解説●斎藤 勉 \*表紙写真●(株)モントル